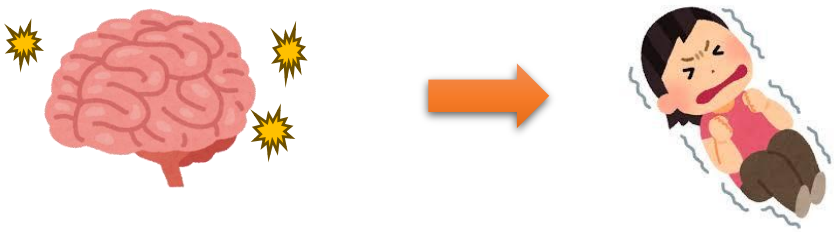
霧島市立医師会医療センター
薬剤部 DI ニュース
No. 338
2025年7月

# 抗てんかん薬ブリィビアクトについて

ブリィビアクト®(一般名：ブリーバラセタム)は部分発作を適応とする抗てんかん薬として国内 8 年ぶりの新薬です。そこで、今回はてんかんとブリィビアクトについて解説していきたいと思います。

## てんかんとは

てんかんは「脳の疾患」で、脳の神経細胞（ニューロン）に突然発生する激しい電気的な興奮により繰り返す発作を特徴とし、それに様々な臨床症状や検査での異常が伴う病気と定義されています。てんかん発作は、**脳の神経細胞（ニューロン）が過剰に興奮し、異常な電気信号を発すること**で引き起こされます。



てんかん発作は大きく分けると、**部分発作（焦点発作）**と**全般発作**に分けられます。

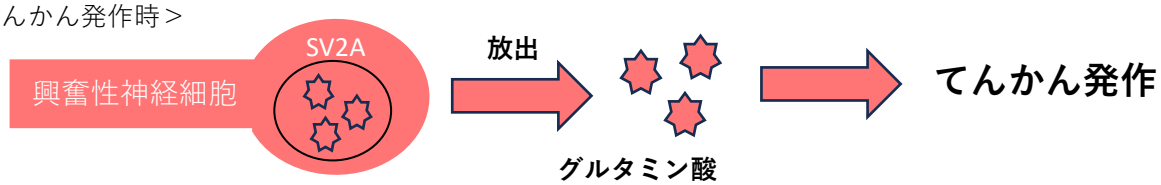
**部分発作**
脳の一部が異常な電気活動を起こすことで発症。
部分発作はさらに発作中の意識の状態とけいれんへの移行によって次の3つに分けられます。
① 意識が発作中に保たれている**単純部分発作**
② 意識が障害される**複雑部分発作**
③ 部分発作から**二次的に全般発作に進展する**もの

**全般発作**
脳全体が同時に異常な電気活動を起こすことで発症する。

## ブリィビアクトはどのように作用する？

脳の興奮性神経細胞の**SV2A（シナプス小胞タンパク質2A）**と呼ばれる箇所から放出される**グルタミン酸**により脳は興奮します。てんかん発作時にはこの興奮性神経系が強く働くため脳の興奮系を抑制する治療が必要になります。

＜てんかん発作時＞




ブリィビアクトは、シナプス小胞タンパク質2A (SV2A)に結合してグルタミン酸の放出を抑制することで神経の異常興奮が抑えられてんかん発作を抑制する作用を発揮します。

＜ブリィビアクト投与時＞

## ブリィビアクトとイーケプラの違いとは・・・　それぞれの特徴と使い分け

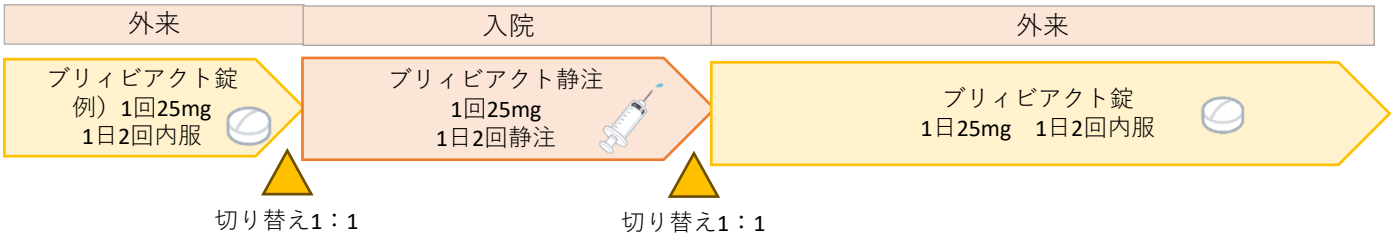
ブリィビアクトとイーケプラはどちらもSV2Aに結合して抗てんかん作用を発揮します。
そのため、２剤の使い分けや相違点を以下の表にまとめました。

| **薬剤名**<br>**（一般名）** | | | **ブリィビアクト®**<br>（ブリーバラセタム） | イーケプラ®<br>**（レベチラセタム）** |
|---|---|---|---|---|
| 剤形<br>＊太字は当院採用 | | | 錠剤(**25mg**、50mg)<br>静注(**25mg**) | 錠剤(250mg、**500mg**)<br>**ドライシロップ50%**<br>点滴静注(**500mg**) |
| 効能<br>効果 | てんかん患者の部分発作<br>(二次性全般化発作を含む) | | ○ | ○ |
| | 他のてんかん薬で十分な効果が認められない<br>てんかん患者の強直間代発作に対する<br>抗てんかん薬との併用療法 | | × | ○ |
| | てんかん重積状態 | | × | ○(点滴静注のみ) |
| 用法用量 | | 投与量 | 【錠剤】1日50mgを1日2回<br>【注射】1日50mgを1日2回に分け2分から15分かけて静脈内投与 | 【錠剤】1日1000mgを1日2回<br>【注射】1日1000mgを1日2回に分け1回量を15分かけて点滴静脈内投与 |
| | | 最大用量(内服、注射) | 200mg | 3000mg |
| | | 腎機能による調節 | ― | 必要 |
| 併用注意 | | | CYP2C19誘導薬<br>カルバマゼピン、フェニトイン<br>アルコール | ― |
| 副作用 | | | 傾眠、浮動性めまい<br>疲労、易刺激性<br>不安、不眠<br>悪心、食欲不振、回転性めまい<br>など | 浮動性めまい<br>頭痛、不眠症<br>傾眠、好中球減少、腹痛<br>下痢、便秘、胃腸炎、口内炎<br>鼻咽頭炎、湿疹<br>など |
| 小児適応 | | | × | ○ |
| 作用機序 | | | SV2Aに結合(選択的) | SV2Aに結合(非選択的) |

＊ちなみにブリィビアクトとレベチラセタムの換算比は1：10～15になります。(海外の実臨床のデータに基づく)

## ブリィビアクトの注射薬と内服について

ブリィビアクト静注製剤は経口製剤と同じ投与量・投与回数で切り替え可能です。




ブリィビアクト静注は希釈して投与することもできます。
希釈する場合には生理食塩水、5％ブドウ糖注射液または乳酸リンゲル液で希釈します。


参考文献

ブリィビアクト静注25mg　ブリィビアクト錠25mg／ブリィビアクト錠50mg　(添付文書)
イーケプラ点滴静注500mg　イーケプラ錠250mg／イーケプラ錠500mg（添付文書)
てんかんについて | 公益社団法人 日本てんかん協会
UCBCares てんかん医療者向けサイト



薬学部実習生　今村遥
指導薬剤師　岸本真　長ヶ原琢磨